



ミニトマト編

病害虫注意報 2025年1月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

疫病・灰色かび病特集

疫病

多発条件：

低温多湿の条件下で発生が多くなる。

症状・注意点：

初め灰緑色水浸状で、次第に暗褐色大型病斑になる。多湿時には、表面に白色のかびを生ずる。感染～発病が短く、**短時間で被害が拡大しやすい。**



灰色かび病

多発条件：

気温20℃位のやや低温、多湿条件下で発生が多くなる。

症状・注意点：

花卉・果実・葉・茎に灰色のかびが発生する。果実にはゴーストスポットと呼ばれる白色円形の小さな斑点が生じる場合もある。



今月のおすすめローテーション

対象病害虫によって希釈倍数が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

時期	RAC	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	回数	影響日数 マルハバチ
1月 ①	4,M05	疫病・葉かび病 予・治	フォリオゴールド	800～1,000倍 (葉かび病は800倍)	前日	2回	0日
	9B	コジウム類・アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	5,000倍	前日	3回	0日
1月 ②	7	灰色かび病・葉かび病 うどんこ病 等 予	ケンジャフロアブル	1,500倍	前日	3回	1日
	-	コジウム類・アブラムシ類 ハダニ類・うどんこ病	フーモン ※野菜類登録	1,000倍	前日	-	0日
1月 ③	11	灰色かび病・すすかび病 葉かび病 等 予・治	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～ 3,000倍	前日	3回	1日
	6	コジウム類・トマトヒゲダニ ハダニ類・アブラムシ類・材ハダニ等	アフーム乳剤	2,000倍	前日	5回	2日

かいよう病について

細菌性病害で、土壌伝染・種子伝染する。施設栽培では主に冬期に発生が多くなる。

葉が萎れ、徐々に黄化も見られるようになり、最終的には枯死する。なお、果実に病斑が発生するのは、ほとんどが露地栽培である。

現在登録農薬が少なく、使用資材の消毒、土壌消毒が主な対策となる。



兼商クプロシールド

かいよう病・疫病で使用可能！

- ▶ 無機銅フロアブル
- ▶ 細かい粒子で優れた効果！
- ▶ 汚れが少ない！
- ▶ 収穫前まで使える！
- ▶ 使用回数のカウント無し！



かいよう病・すすかび病・葉かび病：1,000倍
疫病：1,000～2,000倍